

シラバスデータ			2025/4/1
科目名	保育者論		
年度	令和7年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	保育者に求められる働きは多岐にわたる。その保育者の毎日の働きがどのような意味を持っているか、何がどのような理由で求められているか、そこで尊重していくべきことは何か等を考えなければならない。今の自分を見つめ、課題を見出し、自身の保育者像を描いていく。	
学年	3年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	後期	多様なニーズに応えられる保育者になるため、今まで身につけた知識や実習で学んだ実践をアウトプットし共有することで、社会の変化に対応し求められる保育者について考察する。	
授業回数	15回		
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)	
取得単位数	2単位	・保育者の役割と倫理について理解する。 ・保育士の制度的な位置づけ、専門性について理解する。 ・保育者の連携・協働、資質向上とキャリア形成について理解する。	
授業担当者	杉山 有美 後藤 明子		
実務家教員	○		
使用テキスト 参考文献	「アクティブ保育学 保育者論」 汐見稔之・大豆生田啓友 監修 ミネルヴァ書房 「保育者論ー子どものかたわらにー」 小川圭子 編 株式会社みらい		
評価方法	授業態度20%、提出物20%、科目試験60%で評価する。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	保育者とは	ガイダンス/保育という仕事の本質・特質を考える／杉山	
2	働くとは	働くこと 働く自分のことについてより理解を深める／後藤	
3	保育実践と保育者	魅力的な保育者・子どもの発達に寄り添うために／杉山	
4	保育にまつわる問題	少子化・子どもの貧困・児童虐待について／杉山	
5	多様な子どもの理解	発達障害・外国籍・異文化の背景をもつ子どもについて／杉山	
6	心を育てる教育	子どもたちの心を育てる教育について考える／後藤	
7	遊びを援助する保育者①	子どもにとっての「遊び」とは・遊びを援助するとはどういうことか／杉山	
8	遊びを援助する保育者②	保育者の願いをどう環境に位置付けるか／杉山	
9	幼児教育者に求められること	幼児期の終わりまでに育ってほしい「10の姿」について考える／後藤 ※幼稚園教育要領持参	
10	保育の行事①	なぜ「行事」が必要なのか考える／杉山	
11	保育の行事②	年中行事について学ぶ／杉山	
12	保育者の役割①	保育者の職務内容、初任者・中堅者・管理者の役割／杉山	
13	保育者の役割②	苦情解決方法(事例から考え)／杉山	
14	施設の安全管理	子どもの安全に対する配慮について考える／後藤	
15	保育者のマナー	保育者として社会人としてこれから持っていたいマナーについて考える／後藤	

シラバスデータ			2025/4/1
科目名	乳幼児保育Ⅱ		
年度	令和7年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	乳幼児保育Ⅰでの基礎的知識を素地として、3歳未満児の保育・発達の過程や特性を踏まえたより実践的な援助や関わりを理解する。3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について理解するとともに、保育者としてより実践的な保育技術を習得する。多面的な保育の視点を養い、学びを集結し乳幼児の保育計画の作成について理解を深める。	
学年	3年生		
コース		授業全体の内容の概要	
開講時期	前期	乳幼児保育Ⅰで学習した基礎的知識を踏まえながら、より実践的な乳幼児との関わりの意義や具体的な方法を学び、一人ひとりの子どもと受容的、応答的な関わりができるように数多くの保育技術を習得する。3歳未満児の保育・発達を踏まえた子どもの生活援助や保育環境の構成及び、子どもの成長発達を促す玩具について演習を行いながら、さらに専門的知識を深めていく。3歳未満児の集団保育における安全や心身の健康管理への配慮の実際を理解し、総合的な視点から乳幼児の指導案作成・実践ができるように学びを深める。	
授業回数	8回		
授業形態	演習	授業修了時の達成課題(到達目標)	
取得単位数	1単位	1. 3歳未満児の保育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的考え方について理解する。 2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。 3. 乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。 4. 上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。	
授業担当者	杉山有美		
実務家教員	○		
使用テキスト 参考文献	「演習で学ぶ乳児保育」 善本眞弓編著 わかば社		
評価方法	授業態度、レポート、科目試験の結果を総合して評価する。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	乳児保育の意義	養護と教育が一体となって行われる乳児保育の意義について	
2	0～3歳までの発育・発達	個々の子どもに応じた援助、受容的・応答的な関わり	
3	食事・排泄の援助	0歳児の保育・発達を踏まえた生活と援助の実際	
4	着脱・清潔の援助	1～3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際	
5	健康と安全	安全対策や事故防止、アレルギー対応、防災対策の実際	
6	0歳児の保育の内容	遊びの保育内容、保育者の援助について	
7	1～3歳未満児の保育内容	遊びの保育内容、保育者の援助について	
8	乳児保育を支える連携	乳児保育における計画と評価について/まとめ	

シラバスデータ			2025/4/1
科目名	こどもの健康と安全		
年度	令和7年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	小児の健康について理解し、保育現場で保健活動が実践できる知識と技術を身につける。	
学年	3年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	前期	こどもの保育に対しての危機管理意識を高め、日常的な病気の対応や事故や緊急時における対処方法を理解し、保育現場で対応できる力を養う。	
授業回数	8回		
授業形態	演習	授業修了時の達成課題(到達目標)	
取得単位数	1単位	子どもの健康管理について理解を深め、演習を通して対処の実践力を高める。	
授業担当者	杉浦 美恵子		
実務家教員	○		
使用テキスト 参考文献	子どもの健康と安全(ななみ書房)		
評価方法	授業態度や試験を総合的に判断する。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	保育における健康及び安全の管理	①衛生管理(屋内・屋外) ②事故防止及び安全対策 ③危機管理 ④災害への備えについて学ぶ	
2	感染症対策	①感染症の集団発生の予防を学ぶ ②感染症発生時と罹患後の対応を学ぶ	
3	子どもに起こりやすい体調不良とケア	発熱・嘔吐・下痢・咳・腹痛・便秘・発疹・頭痛について学ぶ	
4	応急処置・救急法	①子どもに起きやすい事故の応急手当について学ぶ ②包帯・三角巾を使って演習を行う	
5	配慮を要する子どもへの対応について	①配慮を要する子どもへの対応 ②障害のある子どもへの対応を学ぶ	
6	3歳児未満児の養護の実際	①抱っこ・おんぶ・寝かせ方・衣服の着脱・身体の清潔保持について学ぶ ②保育所でのSIDSへの対応を学ぶ	
7	3歳児未満児の養護の実際	沐浴実習を行う	
8	まとめ	まとめ	

シラバスデータ			2025/4/1
科目名	子育て支援		
年度	令和7年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援について、その特性と展開を具体的に理解する。保育の専門性を活かした子育て支援の方法を身に付け、身近な子育て支援の方法を身に付け、身近な子育て支援の現状を理解する。保育所・認定こども園などにおいて保育者が行う子育て支援の理論や方法について学び理解を深める。	
学年	3年生		
コース		授業全体の内容の概要	
開講時期	前期	現在の日本社会では少子化・核家族化に伴い、育児不安や親の育児負担が問題となっています。そのため、保育者や子育て支援者による、地域における子育て支援が重要な役割を果たしています。そこで、本授業では、主に子育て支援における現状とその支援のあり方について学ぶ。さらに、保育士に子育てにおける多様な相談援助が求められる状況を理解し、具体的な実践力について演習を通して高めていく。	
授業回数	8回		
授業形態	演習	授業修了時の達成課題(到達目標)	
取得単位数	1単位	1. 保育士の行う相談支援について、その内容と展開を理解できるようになる。 2. 相談支援について、様々な場や対象に即した支援方法を、実践例を通して理解できるようになる。 3. 保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容及び技術を。実践事例を通して具体的に理解できるようになる。	
授業担当者	杉山有美		
実務家教員	○		
使用テキスト 参考文献	新・子育て支援 子どもの姿を喜びに変えるために 松井剛太編著 教育情報出版		
評価方法	授業態度、レポート、科目試験の結果を総合して評価する。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	保育と子育て支援	保育所・幼稚園・こども園における子育て支援とは	
2	子育て支援の意義	支援の方法について、実践事例から考える	
3	子育て支援の基本	子どもの最善の利益、保護者の子育てを尊重すること	
4	子育て支援の技術	信頼関係を築き支援を効果的に進めるための技法について	
5	園内での職員連携	保護者の苦情からの気づき、園のネットワークづくりについて	
6	子どもの育ちの伝える方法と効果	保護者に伝える方法について	
7	特別な配慮が必要な支援	子ども虐待、障害のある子ども、貧困家庭への支援について	
8	子育て支援の今後	子どもの声・保護者の声から支援を考えることについて	

シラバスデータ			2025/4/1
科目名	保育実践演習		
年度	令和7年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	保育士として必要な知識・技能を習得したかを確認し、今後の課題を見出す。そして、保育士として勤務することについて具体的にイメージし、自分なりに将来の展望を描く。以上の取り組みを通じて保育者としての資質向上を図り、保育職に従事するという自覚と意欲を高める。	
学年	3年		
コース	—	授業全体の内容の概要	
開講時期	後期	保育に関わる専門的学修を振り返り、保育士としての資質・知識・技能を修得したことを確認するとともに、子どもや保護者に対する援助の技術・方法等について課題を掲げてグループ討議やプレゼンテーションによる主体的な学習を行い、問題解決能力を身につけ、保育実践への理解を深めていく。	
授業回数	15回		
授業形態	演習	授業修了時の達成課題(到達目標)	
取得単位数	2単位	1. 保育に関する科目横断的な学習能力を修得する。 2. 保育に関する現代的課題について現状分析・考察する力をつける。 3. 問題解決のための具体的な対応・判断方法等を見つけ出す力をつける。 4. 保育に関わる自らの学びを振り返り、保育士として必要な知識・技能を修得したことを確認する。	
授業担当者	井上 充子		
実務家教員	○		
使用テキスト 参考文献	「保育の活動・遊びパーフェクトガイド」小山朝子他 著・「ワークで学ぶ保育・教育職の実践演習」増田まゆみ、矢藤誠慈郎 著 「幼稚園教育要領」並びに「保育所保育指針(解説書含む)」		
評価方法	授業態度、提出物、試験により総合判定する。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	ガイダンス/保育者になるということ	思い描く保育者像について考える・保育者の実践的力量について	
2	保育の基本と遊び	保育の基本・環境を通して行う保育・こどもの発達と活動・遊び	
3	専門性の内容①	子ども一人ひとりの特性に応じた援助(事例検討)①	
4	専門性の内容②	子ども一人ひとりの特性に応じた援助(事例検討)②	
5	専門性の向上①	保育者にとっての自己課題(ロールプレイングからグループワーク)①	
6	専門性の向上②	保育者にとっての自己課題(ロールプレイングからグループワーク)②	
7	教育課程および全体的な計画①	グループワーク: 保育園orこども園のパンフレット作成する	
8	教育課程および全体的な計画②	グループワーク: 保育園orこども園のパンフレット作成する	
9	発達に合った玩具作り①	年齢別発達を考え、玩具づくりを行う	
10	発達に合った玩具作り②	年齢別発達を考え、玩具づくりを行う	
11	発達に合った玩具作り③	年齢別発達を考え、玩具づくりを行う	
12	発達に合った玩具作り④	年齢別発達を考え、玩具づくりを行う	
13	発達に合った玩具つくりと発表	作った玩具の発達を促す点、工夫した点、遊び方などを発表し意見交換を行う	
14	目指す保育者像について	自己課題の解決方法を考え、今後の計画を立てる	
15	目指す保育者像について	保育者として求められる資質・能力/学習のまとめ	

シラバスデータ			2025/4/1
科目名	ピアノ技術Ⅱ		
年度	令和7年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	・ピアノ演奏を通して表現する楽しさを味わうことができるようになる。 ・教育実習及び保育の現場で役立つ技術や表現力の獲得を目標とする。	
学年	3年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	前期	保育の現場に必要な基本的なピアノ奏法の取得を目指して、幼児歌曲などの弾き歌いをを用いて学ぶ。それぞれのレベルが異なるため、レベルに合わせた指導を行う。	
授業回数	15回		
授業形態	演習	授業修了時の達成課題(到達目標)	
取得単位数	2単位	指定の弾き歌い3曲を演奏できるようにする。	
授業担当者	廣瀬 絵美		
実務家教員	×		
使用テキスト	豊岡短期大学指定テキスト こどものうた200 小林美美著		
参考文献	実用こどものうた 田口雅夫・高崎和子共編		
評価方法	出席率80%であること。 授業態度・課題曲等の達成度を総合的に評価する。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	授業ガイダンス	課題曲の提示…弾き歌い 教育実習先からの課題曲、その他こどもの歌。	
2	ピアノ実技 弾き歌い実践	各自、課題曲の練習および担当教員との個別指導を行う。	
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

シラバスデータ			2025/4/1
科目名	こどもの指導法「音楽表現」(実践演習)		
年度	令和7年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	領域「表現」の「音楽表現」に視点を置き、領域「表現」の全体目標への到達を目指し、より具体的、実践的、対話的な保育実践の方法を習得する。	
学年	3年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	前期	領域「表現」の目標を理解するとともに、音楽を通した様々な表現活動の在り方や実践の方法を具体的に理解する。	
授業回数	5回		
授業形態	演習	授業修了時の達成課題(到達目標)	
取得単位数	2単位(3年間)	感性と表現に関する領域「表現」のねらいと内容を理解するとともに音楽表現活動に必要な知識を習得し理解を深める。また、模擬保育を行い、実践力を高める。	
授業担当者	小関 宏美		
実務家教員	○		
使用テキスト 参考文献	豊岡短期大学指定テキスト		
評価方法	授業態度、実技・技能評価及び科目試験を総合的に評価する。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	模擬保育「いろいろな音を集めて遊ぼう」の実践と指導案の討議	弾き歌い・伴奏法の実践	
2	模擬保育「わらべうた・伝承遊びをたのしむ」の実践と指導案の討議	わらべうたや伝承遊び弾き歌い・伴奏法の実践	
3	模擬保育「自然物や身近な素材を活かして楽器あそびをしよう」の実践と指導法の討議	模擬保育での弾き歌い及び楽器あそびの教材研究と伴奏法の実践	
4	「音楽表現の可視化」の実践と「学びの振り返り」の理解	保育活動を音楽表現で構成する手法と伴奏法の実践	
5	教科「音楽」への接続	小学校1年生、教科「音楽」への接続と学びの連続性についての理解とまとめ	

シラバスデータ			2025/4/1
科目名	教職実践演習Ⅰ		
年度	令和7年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	幼稚園での実践を中心としながらも、幼稚園と小学校との連携と接続、保育所と幼稚園との連携などを意識し、教育現場や保育現場で直面する問題に対するの対応力を学ぶ。	
学年	3年		
コース	—	授業全体の内容の概要	
開講時期	前期	教職生活を円滑にスタートできるように、学校現場の視点に立った様々な場面でのリスクマネジメントや保育カンファレンス及び保育実技を通して、実践的指導力を身に付ける。	
授業回数	8回		
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)	
取得単位数	1単位	これまでの学習知と教育実習等で得られた実践知との統合を図り、使命感や責任感のある実践的指導力を身につける。	
授業担当者	井上充子		
実務家教員	○		
使用テキスト 参考文献	「保育・教職実践演習」上長然、國光みどり著 「幼稚園教育要領」並びに「保育所保育指針(解説書含む)」 「保育者論」小林博久・林信二郎編著 樹村書房		
評価方法	授業態度(20点満点)、課題(20点満点)、試験(60点満点)により次のように評価 A: 80点以上、B: 70～79点、C: 60～69点、D: 上記以外		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	ガイダンス	授業概要とテーマ説明、授業計画の確認	
2	教師という職業	教職の意義、教師に求められる資質と能力、教師・保育者になる研修研究の必要性	
3	学級経営	学級と学級経営、学級担任制の役割、学級経営案の作り方	
4	特別支援教育の基礎	発達障害とは何か、発達障害の諸障害および知的障害の概要	
5	特別支援教育と教師・保育者	特別な教育ニーズをもつ子どもと保護者への対応	
6	保育における集団の編成	異年齢保育、統合保育	
7	幼児教育の将来的展望	新しい幼児教育システムと集団保育の方向性	
8	幼保小連携	幼保小連携とは何か、学びと発達の連続性からみた幼保小連携	

シラバスデータ			2025/4/1
科目名	教職実践演習Ⅱ		
年度	令和7年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	幼稚園での実践を中心としながらも、幼稚園と小学校との連携と接続、保育所と幼稚園との連携などを意識し、教育現場や保育現場で直面する問題に対する対応力を学ぶ。	
学年	3年		
コース	—	授業全体の内容の概要	
開講時期	前期	教職生活を円滑にスタートできるように、学校現場の視点に立った様々な場面でのリスクマネジメントや保育カンファレンス及び保育実技を通して、実践的指導力を身に付ける。	
授業回数	8回		
授業形態	演習	授業修了時の達成課題(到達目標)	
取得単位数	1単位	これまでの学習知と教育実習等で得られた実践知との統合を図り、使命感や責任感のある実践的指導力を身につける。	
授業担当者	井上充子		
実務家教員	○		
使用テキスト 参考文献	「保育・教職実践演習」上長然、國光みどり著 「幼稚園教育要領解説」並びに「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 「保育者論」小林博久・林信二郎編著 樹村書房		
評価方法	授業態度(10点満点)、課題(20点満点)、試験(70点満点)により次のように評価 A:80点以上、B:70～79点、C:60～69点、D:上記以外		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	ガイダンス／教師 いう職業	教職の意義及び教師に求められる資質と能力について	
2	学級と学級経営に ついて	学級・学級経営とは 学級担任の役割と学級経営案の作り方	
3	特別支援教育の 基礎	事例研究:実習経験も含めて課題のある子ども(幼児)の研究(グループワーク)	
4	特別支援教育と 教師・保育者	「教育課題の解決への教師としてのアプローチ」について	
5	保育における集団 の編成	異年齢保育・統合保育について	
6	幼児教育の将来 的展望	新しい幼児教育システムの方向性・集団保育の方向性	
7	「幼少連携」への 応用と連携につい て	小学校教育との接続・小学校との連携の背景	
8	学習のまとめ	自己の振り返りと、今後に向けての課題を明確化する	

シラバスデータ			2025/4/1
科目名	こどもの表現と技法Ⅲ		
年度	令和7年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	幼児の生活する姿の中から発達の実情を理解し、適切な環境を幼児の生活に沿って構成し、豊かな感性をはぐくむ幼児の活動が充実するよう援助する方法を学ぶ。	
学年	3年		
コース	—	授業全体の内容の概要	
開講時期	通年	・幼児が興味関心のある活動を企画する力を身につける。 ・幼児の表現意欲を高めるための環境構成・援助の工夫の方法を身につける。 ・保育の展開を理解し、就職につなげる技術を身につける。	
授業回数	30回		
授業形態	演習	授業修了時の達成課題(到達目標)	
取得単位数	2単位	こどもの発達に必要な経験が積み重ねられるような環境を考えると共に、人的環境としての保育者の役割の重要性を理解する。	
授業担当者	井上充子		
使用テキスト 参考文献	必要に応じて紹介する。		
評価方法	課題(60%)、授業態度(40%)により次のように評価 A:80点以上、B:70～79点、C:60～69点、D:上記以外		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	造形表現	季節(4・5月)の壁面制作	
2	造形表現	グループワーク 季節を配慮した環境構成①(6・7・8月、9・10・11月、12・1・2月)	
3	造形表現	グループワーク 季節を配慮した環境構成②(6・7・8月、9・10・11月、12・1・2月)	
4	造形表現	グループワーク 季節を配慮した環境構成③(6・7・8月、9・10・11月、12・1・2月)	
5	造形表現	グループワーク 季節を配慮した環境構成④(6・7・8月、9・10・11月、12・1・2月)	
6	教材研究	即戦力につながる保育教材①	
7	教材研究	即戦力につながる保育教材②	
8	教材研究	即戦力につながる保育教材③	
9	教材研究	即戦力につながる保育教材④	
10	ゲーム	友達と一緒に楽しむゲームの基本	
11	ゲーム	保育場面に合わせてゲームを楽しもう「大勢で楽しむ」	
12	ゲーム	保育場面に合わせてゲームを楽しもう「グループで競争する」	
13	ゲーム	保育場面に合わせてゲームを楽しもう「リレーで競争する」	
14	絵の具	絵画遊びの基本・発達に応じた保育実践のポイント	
15	折り紙	折り紙の基本・発達に応じた保育実践のポイント	
16	保育教材作成	保育現場で使える保育教材の立案と制作①	

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
17	保育教材作成	保育現場で使える保育教材の制作②
18	保育教材作成	保育現場で使える保育教材の制作③
19	保育教材作成	保育現場で使える保育教材の制作④
20	保育教材作成	保育現場で使える保育教材の制作⑤
21	保育教材作成	保育現場で使える保育教材の制作⑥
22	保育教材作成	保育現場で使える保育教材の制作⑦
23	保育教材作成	保育現場で使える保育教材の制作⑧ 実演発表
24	レクリエーション	グループごと立案・準備
25	レクリエーション	教材研究・準備(グループ)
26	レクリエーション	発表・実演(グループ)
27	レクリエーション	発表・実演(グループ)
28	レクリエーション	発表・実演(グループ)
29	レクリエーション	発表・実演 まとめ
30	造形表現	季節(3月)の壁面制作

シラバスデータ			2025/4/1
科目名	教育実習指導Ⅱ		
年度	令和7年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	実習を通して幼稚園教育を学び、幼稚園教諭に求められる専門性を知る。	
学年	3年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	前期	教育実習の目標に向けて具体的な内容を考え準備し、実習後自己を振り返り今後の課題を明確にする	
授業回数	15回		
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)	
取得単位数	2単位	自己課題に取り組むことを通して、幼稚園教諭に必要な基本的資質を理解し身につけようとする。	
授業担当者	井上 充子		
実務家教員	○		
使用テキスト 参考文献	「幼稚園教育実習事前・事後指導」豊岡短期大学 「幼稚園教育要領解説」(フレーベル館)		
評価方法	授業態度(20点満点)、課題(50点満点)、実演(30点満点)により次のように評価 A:80点以上、B:70～79点、C:60～69点、D:上記以外		
90分/コマ	テーマ	内容	
1	授業の概要	幼稚園教諭になるために	
2	指導案作成①	ねらいと内容、環境構成	
3	指導案作成②	教材研究、指導案の見直しと修正①	
4	指導案作成③	教材研究、指導案の見直しと修正②	
5	事前研修準備	実習生としての心構え/関係書類確認	
6	模擬保育①	部分実習指導案での模擬保育①および振り返り(単独で模擬保育45分～60分を行う)	
7	模擬保育②	部分実習指導案での模擬保育②および振り返り(単独で模擬保育45分～60分を行う)	
8	模擬保育③	部分実習指導案での模擬保育③および振り返り(単独で模擬保育45分～60分を行う)	
9	模擬保育④	部分実習指導案での模擬保育④および振り返り(単独で模擬保育45分～60分を行う)	
10	模擬保育⑤	部分実習指導案での模擬保育⑤および振り返り(単独で模擬保育45分～60分を行う)	
11	模擬保育⑥	部分実習指導案での模擬保育⑥および振り返り(単独で模擬保育45分～60分を行う)	
12	模擬保育⑦	部分実習指導案での模擬保育⑦および振り返り(単独で模擬保育45分～60分を行う)	
13	模擬保育⑧	部分実習指導案での模擬保育⑧および振り返り(単独で模擬保育45分～60分を行う)	
14	本実習準備	幼稚園教育実習簿・関係書類 確認	
15	実習振り返り	実習事後振り返り 実習簿記録・実習を終えて・お礼状等確認	

シラバスデータ			2025/4/1
科目名	教育実習事前・事後指導		
年度	令和7年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	実習に向けて、学習の意義・目的を理解し、保育について知識・技能・態度等を総合的に学ぶ。	
学年	2・3年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	(事前)2年後期 (事後)3年前期	教育実習の意義と目的、実習生としての心構えを学ぶ。また、幼児の発達の特性や発達過程を踏まえ、幼児理解や観察の視点・方法、指導案作成等の習得に努めるとともに、目標を持って実習に臨む態度を育成する。また、実習後、総括と自己評価を行い、課題や目標を明確にする。	
授業回数	(事前)5回 (事後)3回		
授業形態	演習	授業修了時の達成課題(到達目標)	
取得単位数	1単位	教育実習で行う手続き・準備・心構えを確認し、実習中に行う実技等を身に付ける。	
授業担当者	井上充子		
実務家教員	○		
使用テキスト 参考文献	・教育実習事前・事後指導」(豊岡短期大学) ・「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館) ・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)		
評価方法	受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する(評価はルーブリック評価を用い行う)※事前指導スクーリングでは(学習のまとめ)も含めて100点満点で評価し60点以上で合格すれば、教育実習申込条件を一つ満す。事後指導スクーリングにおいて、'受講態度20%、単位認定試験50%、課題30%(豊岡短大評価基準)により100点満点で評価し、成績評価を行う。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	スクーリング 実習の意義と目的	・保育者としての倫理 ・実習生としての心構え	
2	スクーリング 観察の視点	・実習日誌の書き方 ・幼児理解と保育	
3	スクーリング 指導案の作成について	・指導案とは何か ・指導案作成の実際	
4	スクーリング 指導案作成	指導案発表会	
5	スクーリング 学習のまとめ	自分の「実習の目標」を作成する	
6	スクーリング 教師の役割	幼稚園教育要領解説 教師の役割	
7	スクーリング 幼児理解と学び	実習の振り返り グループ討論	
8	スクーリング 教育実習の総括	単位認定試験	

シラバスデータ			2025/4/1
科目名	教育実習		
年度	令和7年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	幼稚園の保育の実際について体験的学習をする中で、幼児理解や保育者役割・職務・内容・保育の流れを理解する。幼児の実態を把握し、教育の指導方法や指導案、環境構成を学ぶ。	
学年	3年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	前期	教育実習本実習20日間以上、且つ160時間以上を実施する。 責任実習…部分実習1回・全日実習1回以上	
授業回数			
授業形態	実習	授業修了時の達成課題(到達目標)	
取得単位数	4単位	幼稚園の保育を実践的に体験し、幼稚園教諭として必要な資質・能力・技術を修得する。 子どもの実態を知り、いろいろな場面における環境構成等、それぞれに適した援助について学ぶ。	
授業担当者	井上 充子		
実務家教員	○		
使用テキスト 参考文献			
評価方法	教育実習、実習園からの評価を元に、豊岡短期大学で実習記録等をあわせ総評価したものを最終評価とする		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
		事前研修オリエンテーション 事前研修:ねらい…幼稚園と保育園の違いを理解し、幼稚園教諭の職務について学ぶ。 本実習に向けての目標・自己課題を明確にする。 指導案を考えるための情報収集の場とする。 本実習オリエンテーション 本実習 :20日以上、且つ160時間以上実施 ねらい…幼稚園の保育を実践的に体験し、幼稚園教諭として必要な資質・能力・技術を修得する。 子どもの実態を知り、いろいろな場面における環境構成等、それぞれに適した援助について学ぶ。 前半10日間…観察、参加実習 後半10日間…参加実習及び、責任実習 (※責任実習…部分実習1回・全日実習1回以上、但し園の都合に合わせる。	

シラバスデータ			2025/4/1
科目名	社会人基礎学Ⅱ		
年度	令和7年度	授業の目的・ねらい	
学科	こども心理学科	就職に向けた活動の実際、特に履歴書作成や面接の具体的な練習を体験する。 また、各自希望する就職先に必要な就職活動について研究する。	
学年	3年		
コース	—	授業全体の内容の概要	
開講時期	通年	就職活動の準備として、キャリア形成の考え方、就職先の選定、履歴書作成指導、面接練習等を行う。 また、内定先へのお礼状の書き方、あいさつ、事前研修へ向けての準備とする。	
授業回数	15回		
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）	
取得単位数	30時間2単位	自らが望む就職先へ円滑な活動を目指す。 また、就職後のキャリア形成について考えられるようになる。	
授業担当者	杉山 有美		
使用テキスト 参考文献	・配布プリント		
評価方法	課題(20点満点)、試験(80点満点)により次のように評価 A: 80点以上、B: 70～79点、C: 60～69点、D: 上記以外		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	授業ガイダンス	授業の概要について なぜ人は働くのか、働く意味は何かについて	
2	就職活動のながれ	本校の就職活動のながれおよび指導スケジュールについて 求人票の見方 社会保険等について	
3	国語の習得	文章力・読解力を高めることを中心にした問題集に取り組む	
4			
5			
6			
7	履歴書の書き方	業界の求める志望の動機・自己PRの書き方について	
8		履歴書作成	
9			
10	面接に向けて	実際の面接を想定した面接練習（教員との個別演習・グループ演習）。	
11			
12			
13	内定後の動きについて	活動報告書の書き方。内定先へのお礼状の書き方。 内定後の研修や報告書について	
14	自己課題へのアプローチ	自己課題の明確化とそれに対する取り組み	
15			

シラバスデータ			2022/4/1
科目名	就職指導Ⅱ		
年度	令和7年度	授業の目的・ねらい	
学科	こども心理学科	・ 就職活動の準備を、学科の教育実践を踏まえた上で、行なう。 ・ 「人生100年時代における“キャリア自律”」について理解する。	
学年	3年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	通年	・ 就職活動準備プロセスの理解:「自己理解」+「企業・社会研究」⇒「自己強化」⇒「自己表現」 ・ 該当業界・分野における雇用動向の理解	
授業回数	15回		
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)	
取得単位数	30時間2単位	・ 2年間学んできた保育等の知識スキルを、就職活動を通じてうまくアピールできるようにする。 ・ 社会人になるために必要なビジネスマナーの知識を身に着ける。	
授業担当者	原木伴美		
実務家教員	×		
使用テキスト 参考文献	・配布プリント ・ワークシート集		
評価方法	出席率・授業態度及び課題提出の結果を総合して評価		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	授業オリエンテーション	2年間で身に付けたことを整理しよう	
2	面接に備えよう①	面接指導に向けて志望先を決めて、企業研究をしよう	
3	面接に備えよう②	志望動機を考えよう	
4	面接に備えよう③	志望先に合った自己PRを考えよう	
5	面接に備えよう④	履歴書を書こう	
6	面接に備えよう⑤	履歴書を仕上げて、面接の準備をしよう	
7	現場を知ろう	卒業生の現場体験を聞いて、イメージを膨らめよう	
8	面接の基本を学ぼう	面接の準備と実践を通じて自信が持てるようにしよう。	
9	模擬面接をしよう	グループごと別れて、模擬面接をしよう。	
10	模擬面接をしよう	本番を想定した面接練習をしよう	
11	模擬面接をしよう	本番を想定した面接練習をしよう	
12	模擬面接をしよう	模擬面接の振り返りをして、授業での学びの定着の確認をしよう。	
13	社会人に向けて	就職先の選び方、エントリーシートの書き方について学ぼう。	
14	社会人に向けて	送付状、お礼状の書き方について学ぼう。	
15	まとめ	社会人としての心構えについて学ぼう。	

シラバスデータ			2025/4/1
科目名	ゼミナール		
年度	令和7年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	保育に関わる興味のある内容を選択し、理論と実践を通して研究を重ね、就職後に自らの専門性となる知識と技術を身に付ける。	
学年	3年		
コース		授業全体の内容の概要	
開講時期	通年	ゼミⅠ(専攻別)/テーマを定め、実践を通じた研究を行う。60時間(30コマ) ゼミⅡ/専攻別に分かれた外部活動、論文作成、就職準備等を行う。90時間(45コマ) ゼミⅢ/自ら興味を持った課題について探求する。(90時間(45コマ))	
授業回数	150		
授業形態	演習	授業修了時の達成課題(到達目標)	
取得単位数	20単位	専攻別研究の結果を論文にまとめ、さらに全体の前でプレゼンテーションを行うことで、今までの教育課程の集大成とする。また、地域課題研究では、個人として取り組んでみたい課題を設定し、解決方法を考え取り組むことを通じて、社会が求めている問題解決型学習を実践する。	
授業担当者	後藤 井上 杉山 伊藤		
実務家教員	○×	一部該当。幼稚園教諭・保育所保育士・施設保育士等の経験者あり。	
使用テキスト 参考文献	参考資料を随時配布する。		
評価方法	授業態度10%、活動状況50%、論文発表40%により次のように評価 A:80点以上、B:70～79点、C:60～69点、D:上記以外		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
3年生 通年 30コマ 後藤・井上 伊藤	音楽教育	こどもが日常的に親しみ楽しめる音楽について理解を深め、様々な音楽活動を見学や実践を通して学びを深める。	
	幼児体育	こどもの発達に合わせた体育遊びや運動を楽しむための環境について理解を深め、自らの強みになる保育技術を身に付ける。	
	小児栄養・食育	食に関する行事、食を通した保護者支援、アレルギー疾患を有する子どもへの理解等、演習を通して研究を進める。	
	児童心理・養護	ボランティアと地域活動を通じて、社会的養護が必要な子ども達への支援方法について理論と実践を通し学びを深める。	
	こどもと「遊び」	乳幼児の「遊び」に注目し、研究・検証・調査・実践、を進め、こどもの育ちへの影響や保育現場での発達段階に合わせた取り入れ方、等の学びを深める。	
【ゼミナールⅡ】		専攻別に分かれた外部活動、論文作成、就職準備等を行う。	
3年生 通年 75コマ 杉山	研究に関する指導	研究を進めるにあたり必要な事項の習得および主体的な外部活動 ・外部活動 ・研究論文の書き方指導 ・研究発表プレゼン準備 ・研究発表リハーサル	
	就職準備	・主体的に就職活動準備に取り組む	
【ゼミナールⅢ】		持続可能な社会を目指し、「今できること」を考え取り組むことで、新しい社会の在り方を考える。	
3年生 後期 45コマ 後藤	自分なりの持続可能な社会活動を考え実践する	・PDCAサイクルに沿い、活動を行う。(個人活動) ・活動内容をプレゼンテーションする。 ○個人として興味・関心のある分野(教育・保育・福祉等)において課題を設定し、ボランティアや公共施設、企業等に足を運び課題解決に向けて考え、実践的に取り組む。 ○地域活動を通し、身近な地域の中で持続可能な社会を築くために何ができるか・何が必要なのかを考える。	

シラバスデータ			2025/4/1
科目名	コンピューターリテラシー		
年度	令和7年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	問題発見・解決に向けて、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用するための知識及び技能を身につけ、実際に活用する力を養うとともに情報社会に倫理観を持って参画する態度を養うことを目指す。	
学年	3年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	後期	・与えられた条件のもとで、場面に応じた技術を活用しながら問題解決を実践する。 ・実際の問題解決をプロジェクトとして、解決策の発想や合理的な判断過程を実践し、身近な問題解決を行う。	
授業回数	30回		
授業形態	演習	授業修了時の達成課題(到達目標)	
取得単位数	4単位	・マイクロソフトオフィスの基礎的な操作ができる。 ・プレゼンテーションの基本を理解し、実践力の向上を目指す。 ・情報社会におけるルールやマナーを身につける。	
授業担当者	伊藤知圭子		
実務家教員	×		
使用テキスト 参考文献	配付プリント		
評価方法	授業態度40%、課題60%で評価する		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	ガイダンス	コンピューターリテラシーを身につける意義	
2	ワープロソフトの 基本的操作	Wordの基本的操作	
3		表を活用した文書の作成	
4			
5		画像や図形を活用した文書の作成	
6			
7	表計算ソフトの基 本的操作及び、技 術習得	Excelソフトの基本的操作	
8		関数を使った計算式	
9			
10		グラフの作成	
11			
12	WordとExcelの活 用	WordにExcelを表を貼り付ける	
13		貼り付け方によるデータの違い	
14			
15	プレゼンテーショ ンの基本	プレゼンテーションで重要なこと、概要	
16		プレゼンテーションのストーリー	
17	プレゼンテーショ ンソフトの基本的 操作及び、技術習 得	PowerPointソフトの基本的操作	
18		文字装飾と図形、グラフ、表の活用	
19		画像の挿入、背景画像の設定、テーマ、マスターの変更	
20		スライドショーと資料作成	

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
21	情報社会における法規と制度	個人情報やプライバシー、個人情報の保護や管理と関連権利について
22		
23		知的財産権の概念
24		
25		著作権、著作物の利用、著作権の侵害について
26		
27	実際に起こりうる具体的な問題を事例として、解決を図る	インターネット情報の中から正しい情報を見極める
28		
29		問題解決策をプレゼンテーションする
30		

シラバスデータ			2025/4/1
科目名	地域ボランティア		
年度	令和7年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	ボランティアの理念、目的、意義を身近な社会で体験的に学習することで、社会貢献の意義を理解し、実社会が求める人間力を涵養することを目的とする。	
学年	3年		
コース	—	授業全体の内容の概要	
開講時期	3年間	活動前には参加にあたっての心構えを学び、実際の活動に参加する。子どもの分野に限らず、教員が許可したものであれば活動は可能とする。また、参加後には事後レポートを記入する。	
活動時間	40時間		
授業形態	実習	授業修了時の達成課題(到達目標)	
取得単位数	1単位	市民団体や公共機関などでボランティア体験することで、社会の一員として必要な自主性・創造性を養う。	
授業担当者	担任		
使用テキスト 参考文献	必要に応じて紹介する。		
評価方法	フィールドスタディ・ボランティア活動への取り組み姿勢・意欲(80%)理解・レポート課題(20%)を次のように評価 A:80点以上、B:70～79点、C:60～69点、D:上記以外		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
		〈活動の参加にあたって〉 ①活動内容 担任を介して紹介する活動 自主的に選んだ活動(学校に許可を求める) ②参加のマナー 5分前行動、服装、髪型、挨拶、礼儀、感謝の気持ち、事後報告 ③参加カード・活動報告書・活動を終えて 参加後1週間以内に参加カードと報告書を提出し、担任より検印をもらう。全ての活動を終えたら「活動を終えて」を書く。 ④評価について 40時間以上の活動を原則2年間で終了させる。 ⑤1つの活動が2時間以上のもの あまりに短いものは、活動の成果が得られにくいいため、1活動2時間以上とする。 ⑥移動時間、休憩時間は含まない ⑦一度申し込んだら欠席しない ボランティア活動は、開校以来続いている活動であり、学校の名前を背負って参加するという意識を持つこと。万が一、体調不良等で欠席する場合は、まず担任に相談、その後活動先へ連絡すること。 ⑧マナーを大切にする 主催者と学生にとって、お互いに気持ちの良い時間となるよう思いやりと配慮を忘れない。また、ゴミの持ち帰りやカバンの置く場所、一緒に参加する人とおしゃべりなど気をつけるように。	

シラバスデータ			2025/4/1
科目名	教育・社会研究		
年度	令和7年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	本来であれば、幼稚園教育実習再実習に挑むところであるが、様々な理由により、実習に臨むことが困難な者に対する教育・社会研究である。現代社会を生き抜くための人生観・職業観の確立と社会人基礎力を身に付けるため座学を通して学ぶ。また、保育を間接的に支える仕事を目指し、保育教材の研究や保育に関する知識を学び深める。校外活動では社会人としての備えるべき知識を学び実践力を身に付ける。検定および資格取得を目標として、社会人としての資質能力の向上を目指す。	
学年	3年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	前・後期	○教育実習（幼稚園） 160時数（校外実習） 教育実習事前研修 20時数（校外実習）⇒ 校外実習 60時数 教育実習前・事後指導 15時数（講義） 講義・演習 135時数 ○実習へ参加したが「不可」となった場合 履修時間については、出勤の提出を以て履修時間の読み替えをする。 ただし、下記の検定に2つ以上合格すること。 ○実習へ参加できなかった場合 「教育・社会研究」のシラバスに沿った講義・演習・校外実習及び、検定に1つ以上合格すること。	
授業回数	授業回数：68コマ 校外実習：60時数		
授業形態	講義・演習・実習		
取得単位数	5単位	授業修了時の達成課題（到達目標）	
授業担当者	担任	・保育・教育全般について理解を深める。 ・社会人として必要な知識・技術を身に付ける。 ・自らテーマを決め、立案し校外活動に取り組む。	
実務家教員	×		
使用テキスト 参考文献	資料・プリントを配布する。 必要に応じてテキストを購入する。		
評価方法	授業での成果物と、資格検定試験2つの合格を以て「認定」とする。		
コマシラバス			
時間	テーマ	内容	
90分／コマ	【教育研究】	●各テーマについて、文献で調べレポート（各1,500字程度）にまとめる。	
1	保育理論	①5領域についての理解 各領域が幼稚園・保育所・こども園でどのように展開されているか ②幼稚園・保育所・こども園・認可外保育施設のの違いについての理解 ③学校と児童福祉施設のの違いの理解 ④平成元年の幼稚園教育要領改訂の意義	
2			
3			
4	子どもの理解	①子どもの人権と権利の理解 ②幼児期の発達理解（身体育ち・情動の育ち・言葉の育ち・知的な育ち・友人関係の育ち） ③応答的な人的環境関わることの意義の理解 ④現代の社会環境での発達の課題の理解	
5			
6			
7	地域との連携	①幼小接続に関する理解 ②小学校のスタートカリキュラムについて ③子育て家庭を支援する必要性の理解	
8			
	【社会研究】	●各課題に対する成果物及び検定取得に向けた講義・演習に取り組む。 ●自らテーマを決め、活動計画を立て活動に参加する。 ●活動を通しての学びを事後レポートとして提出する。 ●1～2週間に1冊読書を行い、400字程度の感想文を書く。	
1	自己啓発	①『何のために働くのか』を読み、将来に向けた自分なりの考えを見出す。 各章ごとに考えをまとめ、レポートを作成する。 ②担当教員と面談を実施し、自己の振り返りと今後の目標設定を行う。 ③『やる気の根っこ』を活用し、自己理解を深め自分らしさと自己課題を明確にする。	
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			

コマシラバス		
時間	テーマ	内容
11	検定対策	就職に必要な基礎知識・技能の習得(検定2つ以上)に向けて学習に取り組む。 【取得目標資格検定】 ○(公財)日本漢字能力検定協会主催 日本漢字能力検定3級以上 ○(株)サーティファイ ソフトウェア活用能力認定委員会主催 Excel表計算処理技能認定試験3級以上 ○(株)サーティファイ ソフトウェア活用能力認定委員会主催 Word文書処理技能認定試験3級以上 ○(株)サーティファイ ソフトウェア活用能力認定委員会主催 Power Pointプレゼンテーション技能認定試験初級以上 ○マナー文化教育協会主催 実用マナー検定3級以上 ○(一財)日本能力開発推進協会認定 幼児食インストラクター
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
31		
32		
33		
34		
35		
36		
37		
38		
39		
40		
41		
42		
43		
44		
45		
46		
47		
48	事前事後指導	①校外実習のテーマを決め、活動計画を作成する。 ②実習先の概要、活動内容について事前学習を行いまとめる。 ③校外実習の目標を設定する。
49		活動終了後、事後レポートを作成する。(合わせて1,500字程度) A.活動の中で経験した事柄から学んだことを、具体的な事例を挙げて述べなさい。 I.様々な援助やその活動において理解したことについて、具体的な事例を挙げて述べなさい。
50		
51		
52		
53		①自分の活動目標に対し、その達成について自己評価を行い考察する。(800字程度) ②卒業までの課題や努力目標についてまとめる。
54		
55		
56		
57		
58		
59		
60		

60時間	校外実習	●自らテーマを決め、活動計画書を作成する。 ●活動日ごとに目標を設定し活動に臨む。 ●活動記録を提出する。 ●出勤票に確認印をいただき、登校時に担任が確認する。
------	------	--